FASF

（議事要旨）サステナビリティ基準委員会の活動状況について

サステナビリティ基準委員会（SSBJ）の川西委員長より、SSBJ の活動状況について説明が行われた。これについて、サステナビリティ基準諮問会議の複数の委員から、2024 年 3 月に公表された公開草案に寄せられたコメントへの対応について SSBJ で丁寧に審議されていることを評価するコメントがあった。また、次に関する質疑応答が行われた。

- 限定した範囲の再公開草案を公表する方向性について、趣旨、見込まれる反応及び 2025 年 3 月を目標とする最終化への影響
- グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）との関係強化の目的
- 現在、議論が進んでいるサステナビリティ開示に係る保証が及ぼす開示基準や解説記事への影響、先行する欧州等の実務の我が国への影響
- 意見が割れている領域について解説記事を作成する場合の考え方
- ISSB 基準と SSBJ 基準との間の差異表の性格

その他、サステナビリティ基準諮問会議の委員より、次の意見が聞かれた。

- SSBJ 基準がより ISSB 基準に近づく方向で審議が進んでいることに賛同する。利用者の立場として、ISSB 基準との間で機能的に整合性の確保された基準を重視している。解説記事等も整備されていくことについても賛同する。
- 実務を支援する解説記事の作成に期待する。例えば、重要性がない場合の対応の明確化や、開示の出発点となるバリュー・チェーンの識別について優先することを要望する。
- これまでの SSBJ の議論で、SASB スタンダードの位置付けや、スコープ 1、スコープ 2 及びスコープ 3 の温室効果ガス排出の絶対総量の合計値の開示など、公開草案で提案されていた一部の提案について、寄せられたコメントを踏まえて、実務への配慮や見直しが進められていることに同意する。また、任意適用の企業に配慮した取扱いについて、今後、最終化に向けた段階で議論されることを期待する。なお、2025 年 4 月に IFRS 財団の統合思考報告カンファレンスが東京で開催される予定であり、タイムリーに SSBJ 基準が最終化されることで、国際的に日本の取組みがより肯定的に受け止められるのではないかと考える。
- SSBJ での基準開発は、ISSB 基準の基本的な方向性に沿いつつ、より分かりやすいものとなるように配慮しながら進められていると理解している。また、当初の提案を変更した

部分について限定的な範囲の再公開草案を公表するとの方向性について、丁寧な進め方であると考えており賛成する。

- 「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度」（いわゆる「温対法」）を用いる場合の地球温暖化係数の取扱いに関する SSBJ での審議の方向性について、関連する ISSB 基準の理解について国際的には異なる見解もある可能性があり、慎重に審議を進めることがよいと考える。

以　上